

# 1 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

## 各社の考え方

### □算定を行う背景・目的

- 日本市場におけるコカ・コーラ社製品は、製品の企画開発、マーケティング、原液の製造を日本コカ・コーラ(株)が、製品の製造、輸送、販売、回収、リサイクル等をボトリング会社5社と関連会社が担当しており、全体を「コカ・コーラシステム」と呼んでいます。弊社グループは、日本の1都2府35県をカバーする国内最大のボトリング会社であり、排出量削減に向けてはコカ・コーラシステム全体のサプライチェーン排出量の全体像を俯瞰した上で、日本コカ・コーラ(株)との緊密な協力体制のもと、効率的な戦略を策定し推進して参ります。

### □算定結果の活用方法

- CDPをはじめとする各種調査、弊社ウェブサイト、レポート類の刊行物等で公開しています。
- 排出量削減に向けた具体策の検討に活用しています。

### □算定のメリット

- 製品のライフサイクルにおける各プロセスごとの排出量が明確になり、弊社グループが行う部分と、コカ・コーラシステム全体で取り組むべき部分が可視化されました。

### □社内の算定体制

- 弊社グループにおいて清涼飲料事業の中核会社となるコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社のCSV推進部が主管となり、グループ各社の関連部門よりデータを収集して算定しました。
- 2018年1月におけるグループ会社統合以前に各事業会社で行っていたデータ集計手法における差異の解消、データの精緻化等は、正確性、透明性を期すべく外部コンサルティング会社の助言を得て実施しています。

# 2 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

## 各社の考え方

### □ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて

- 弊社グループは、社会的責任に関する国際規格であるISO26000の7つの中核主題に基づき、社会との共創価値(CSV)への取り組みを最も重要な経営課題の一つと位置づけています。環境負荷の低減と事業の成長を両立するイノベーションにより、地球環境の保全を進め、CSVを実現します。また、弊社グループの一部(旧コカ・コーラウエスト株)。2018年1月に弊社へ統合)は、2012年より毎年CDPIに回答しており、サプライチェーン排出量を可視化することで、バリューチェーン全体での環境負荷削減に取り組んでいます。
- 全世界のコカ・コーラで、カーボンフットプリントについての統一基準を定めており、「1Lの製品を作るために排出するCO2量」を“DIYH(Drink In Your Hand)”と定義し、「原材料」「容器包装」「製造」「物流」「販売」の5つのプロセスでの排出量を計測し米国本社に報告しています。コカ・コーラは全世界で、このカーボンフットプリント“DIYH”を2020年までに2010年比で25%削減することを目標に掲げ、活動を推進しています。

### □ サプライチェーン 排出量算定の課 題

- 異なる法人格を持つ企業群が各プロセスを担当するため、目標達成にあたっての考え方や施策をスピーディーに統一することが課題の一つです。
- 特に、2030年以降の長期目標を策定し、日本のコカ・コーラシステム全体で共有し取り組みを開始することを喫緊の課題と捉えています。

### □ その他(任意)

# 3 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

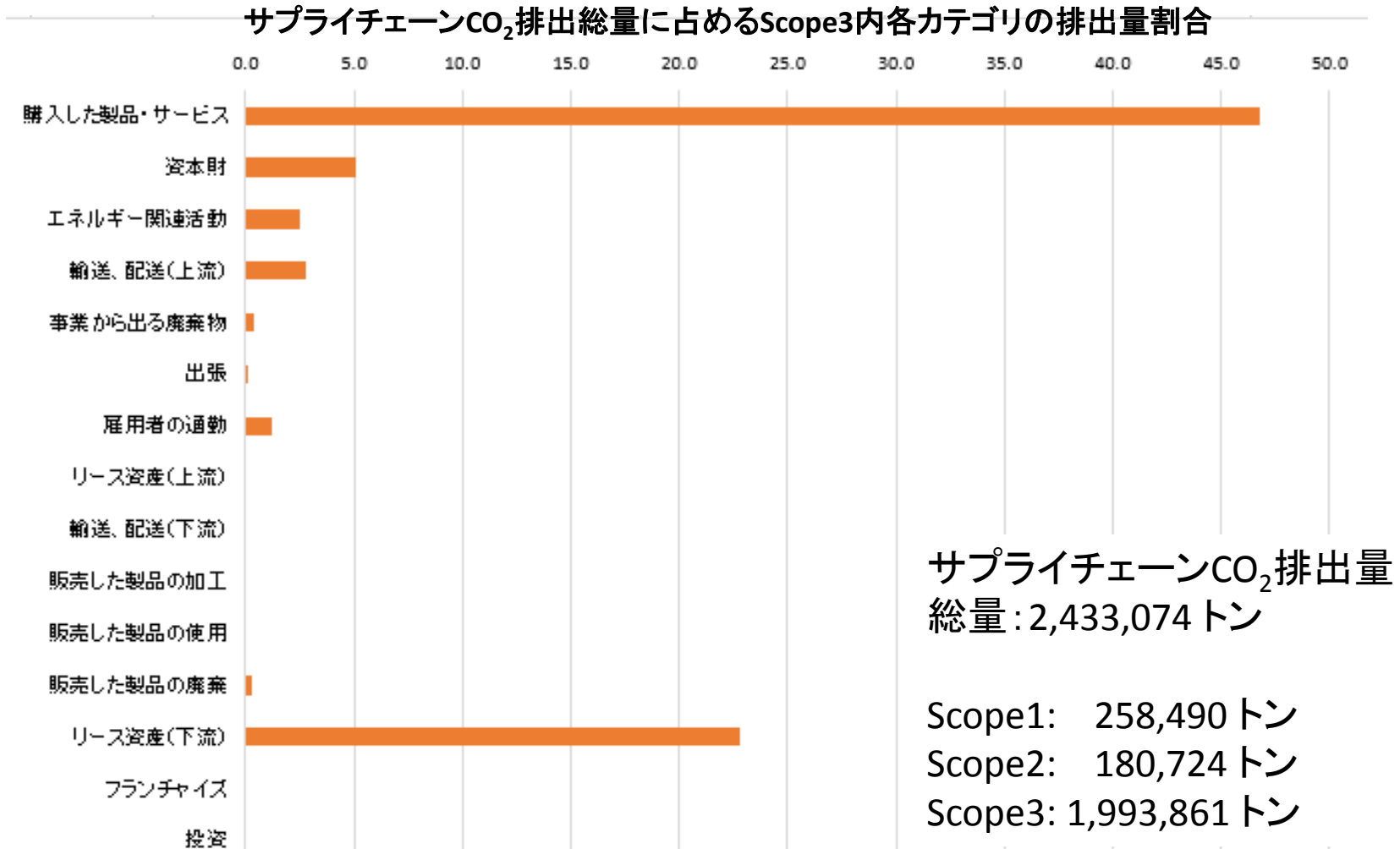
※CO2排出データ算出期間: 2016年1-12月

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料・資材の調達量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The Coca-Cola Company によるEmissions Factors に基づく</li> </ul>
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本財や土地等への投資金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本財の価格あたり原単位(環境省DB)</li> </ul>
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気・蒸気・燃料の使用量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく</li> </ul>
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部委託の輸送による燃料の使用量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に基づく</li> </ul>
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の重量および費用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業連関表ベースの排出原単位に基づく(環境省DB)</li> </ul>
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の出張に伴う支払費用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通費支給額あたりの排出原単位&lt;事務局&gt;に基づく(環境省DB)</li> </ul>
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の通勤に伴う支払費用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通費支給額あたりの排出原単位&lt;事務局&gt;に基づく(環境省DB)</li> </ul>
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売した製品の廃棄量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物種類・処理法別排出原単位&lt;事務局&gt;に基づく(環境省DB)</li> </ul>
カテゴリ13「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>弊社販売機材(飲料自販機など)の電力使用量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弊社による各機材の年間電力使用量に、温対法に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に掲載の数値を乗算して算出</li> </ul>
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>

# 4 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

※CO2排出データ算出期間：2016年1-12月

## 算定結果



# 5 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

## 参考資料

世界標準のDIYH算出項目は、「原材料」「容器包装」「製造」「物流」「販売」の5つのプロセス毎に下記のとおり。但し、日本では対象外の原料についてもある程度影響が無視できないものについて、CO2排出原単位を定義しており、その項目は下記のとおり

### ● グローバルでの DIYH算出項目

- 原材料： 甘味料(サトウキビ、トウモロコシ、テンサイ)、オレンジ、レモン、アップル、マンゴー、コーヒー、茶、CO2 (原材料)
- 容器包装： ペットボトル、ガラスボトル、アルミ缶、スチール缶、紙パック、缶ふた、キャップ、王冠、ラベル、段ボール
- 製造： 購買電力、A重油、都市ガス、天然ガス、LNG、LPG、灯油、軽油
- 物流： 車両輸送(ガソリン、軽油、LPG、CNG)、鉄道輸送、船舶輸送、航空輸送
- 販売： 購買電力(クーラー、自動販売機)

### ● 日本でのDIYH算出項目

- 原材料： 甘味料(サトウキビ、トウモロコシ、テンサイ)、オレンジ、レモン、アップル、マンゴー、コーヒー、茶、CO2 (原材料)、ミルク
- 容器包装： ペットボトル、ガラスボトル、アルミ缶、スチール缶、紙パック、缶ふた、キャップ、王冠、ラベル、段ボール
- 製造： 購買電力、A重油、都市ガス、天然ガス、LNG、LPG
- 物流： 車両輸送(ガソリン、軽油、LPG、CNG)、鉄道輸送、船舶輸送
- 販売： 購買電力(クーラー、自動販売機、ディスペンサー)